

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

運動会後の2学年の取組として構成的グループエンカウンターの手法を取り入れ、「AWARDカード」を交換するレクリエーションを行った。運動会の各種目で中心となっている生徒だけでなく、練習に意欲的に取り組んだ人やクラスに貢献した人を見付けるヒントを具体的に例示した。「仲間の良いところにたくさん気付いたあなたは素晴らしい」と認め合えるようにして、カードを全員が必ずもらえるように配慮して取り組んだ。



大なわを回す人、全員リレーの前後の走者、同じ係の人など全員に賞を授与



夏季休業日直後の定期考査に向けて、学習をしたい生徒や、宿題に取り組みたい生徒を対象に「夏季休業日中の学習教室」を8月の最終週に実施した。先に保護者に連絡し、生徒の参加希望を8月中旬から受け付け、申込のあった生徒が参加した。

また、参加した生徒を対象に「新学期のスムーズなスタートに向けて」というアンケートを行い夏季休業日中の困ったことや新学期に向けて心配なことを聞き取り、新学期を安心して迎えられるように支援することができた。



宿題を完成させ、安心して新学期を迎えられるように。

【取組2】(B中学校)

「弁当の日」を実施するために技術・家庭科で弁当作りの授業をしている。この取組は生徒の生活面での自立を支援し、保護者とのコミュニケーションを図ることを目標として実施している。給食は、汁物(みそけんちん汁)と牛乳のみが提供される。保護者にも協力をお願いし、技術・家庭科に苦手意識のある生徒も弁当を作る努力が見受けられた。



【取組3】(全巡回担当校)

巡回担当校で実施した生徒意識調査の結果を用いて、校内研修会を実施した。生徒意識調査について教員が事前に予想した結果と実際の結果を見比べたり、教員間の認識のずれについて協議したりして、「魅力ある学校づくり」の演習を行った。それぞれの学校の先生方は、不登校の未然防止のために「居場所づくり」と「きずなづくり」の取組をしていく「魅力ある学校づくり」について熱心に協議することができた。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（C中学校）

時間割の都合で不登校対応巡回教員が支援会議に出られなかった1学期には、別の時間に関係者と情報交換を行った。2学期になり、時間割を調整して、不登校対応巡回教員、SSW及びSCが参加できるようにした。生活指導主任を中心に、様子の気になる生徒の情報交換を行っている。

アウトリーチによる支援（D中学校）

欠席が続く生徒の自宅を訪問し、一緒に散歩して信頼関係を育み、当該生徒に寄り添った支援を継続した結果、教育支援センターに通えるようになった。

また、家庭訪問してもなかなか面会できなかった生徒の家庭と関係機関をつなげた。教育支援センターに一人では通えない生徒の通室の付き添いもしている。

校内別室における支援（D中学校）

教室の中心を壁で2部屋に仕切っており、右の部屋と左の部屋の2部屋がある。部屋を仕切る壁に扉があり、内側から出入りが可能である。

右の部屋：＜静かに過ごす部屋＞

仕切られた個別の学習スペースがある。

左の部屋：＜音出しが可能な部屋＞

オンライン授業やラジオ体操、相談・面談等を実施

黒板・壁・机に、気持ちが安らぐ掲示物や教材を配置した。



デジタル機器を活用した支援（全巡回担当校）

- ①コミュニケーションツールを活用し、生徒が時間割や諸連絡を配信、学校での様子を把握しやすくした。
- ②遅刻・欠席連絡に連絡ツールを活用した。
- ③課題提出をオンライン上でも可能にすることで家庭学習を充実化した。
- ④ICTを活用して、生徒の心身の状態を把握するようにした。
- ⑤校内別室への授業配信を行った。

関係機関との連携（E中学校）

SCやSSWと校内会議や校務パソコンなどで情報共有を図り、連携をとるようにしている。VLPに登録し、活用している生徒と、校内別室で一緒に体験を行った。

教育支援センターへ登録利用している生徒も多く、見学を実施している。

成果

「学校は楽しい」と肯定的に回答する生徒の割合は、約9割であった。校内別室で安心して生徒が過ごせている。一人1台端末を使い、自宅でも学校や授業の様子が伝わり、継続的な支援ができた。

課題

校内別室を利用する生徒の希望に応じ、教室復帰に向けた支援の方法を工夫する必要がある。